

令和5年度 図書館だより <第1号>

令和5年5月17日(水) 群馬県立太田フレックス高等学校図書室 発行

読書運動推進協議会・若い人に贈る 読書のすすめ 2023

新たな一歩を踏み出すフレッシュなあなたに

みずみずしい感性、好奇心、柔軟な思考、そうしたものを豊かに持ちあわせている<若いとき>に読書をする事は、これからの生き方に必ず大きな実りをもたらします。あなたが読書を日常のなにげない習慣にすれば、思いがけない幸せな「本との出会い」がきっとやってくるにちがいありません。

(「読書運動推進協議会リーフレット」より)

読書運動推進協議会2023・若い人に贈る24冊を以下に紹介します。本校図書室でも用意しましたので、ぜひ足を運んでください。

 <p>『運動脳』 アンデシュ・ハンセン/著 サンマーク出版</p> <p>『スマホ脳』著者アンデシュ・ハンセン最大のベストセラー、それが本書。学力・集中力・記憶力・創造性…脳のあらゆる力を伸ばす運動の秘訣、大公開!</p>	 <p>『大人になる前に知ってほしい生きるために必要な「法律」の話』 木村真実 [ほか] /監修 ナツメ社</p> <p>「匿名での悪口、罪になる?」「痴漢にあったらどうしたらいい?」自分や大切な人を守るために知っておきたい法律について、マンガを交えて解説する。</p>	 <p>『オトナ女子のすてきな語彙力帳』 吉井奈々/著 ダイヤモンド社</p> <p>使うたびに相手も自分も幸せになる 334の言葉を「挨拶」「感謝」「打ち解ける」「お願い」「断る」といったシチュエーション別に紹介。さまざまなシーンで使える!</p>
 <p>『もっと早く言てよ。50代の私から20代の私に伝えたいこと』 一田憲子/著 扶桑社</p> <p>「今」を楽しむことをサボっちゃダメ。50歳を超えた今の自分だから学びとり、あきらめ、昇華できたことを20歳のころの「私」に向けて綴ったエッセイ集。</p>	 <p>『いままでとこれから』 堀米雄斗/著 KADOKAWA</p> <p>スケートボードが大好きな町生まれの少年は、どのようにしてアメリカでプロスケーターとなり、金メダル選手になったのか。堀米雄斗初のフォトエッセイ!</p>	 <p>『みやぎから、』 佐藤健・神木隆之介/著 NHK出版</p> <p>佐藤健と神木隆之介が宮城の食や伝統、産業、ものづくりの魅力を求めて訪ね歩き、現地の人々との対話から震災の記憶と新たな暮らしを見通したビジュアル対話集。</p>
 <p>『香君(上・下)』 上橋菜穂子/著 文藝春秋</p> <p>奇跡の稲、オアレ稲をもたらし、香りで万家を知るといふ活神(香君)の庇護のもと、帝国は発展を続けてきた。アイシヤは、オアレ稲に秘められた謎と向きあい……。</p>	 <p>『その本は』 又吉直樹、ヨシタケシンスケ/著 ポプラ社</p> <p>旅に出たふたりの男は、たくさんの本の話を持ち帰り、王様のために夜ごと語り出した。又吉直樹とヨシタケシンスケによる抱腹絶倒・感涙必至の本の旅!</p>	 <p>『掬えば手には』 瀬尾まいこ/著 講談社</p> <p>中学3年のときに、人の心を読めるという特殊な能力に気づいた大学生の匠。ところが、バイト先で出会った常盤さんは、匠に心を開いてくれなくて……。</p>
 <p>『空をこえて七星のかなた』 加納朋子/著 集英社</p> <p>南の島で、山奥のホテルで、田舎町の高校で。星を愛し星に導かれた人々が紡ぐミステリー。〈日常の謎〉の名手が贈る、驚きと爽快な余韻に満ちた全7話。</p>	 <p>『目で見ることばで話をさせて』 アン・クレア・レゾット/作 岩波書店</p> <p>島に暮らす感性豊かなろうの少女メアリー。ある日突然科学者に誘拐され、ことばと自由を奪われて……。マーサズ・ヴィンヤード島を舞台にした歴史フィクション。</p>	 <p>『ぼく』 谷川俊太郎/作 岩崎書店</p> <p>「ぼくはしんだ じぶんでしんだ」詩人・谷川俊太郎が「自死」を想い、言葉をつむいだ絵本。新進気鋭のイラストレーター・合田里美が美しい日常風景で彩る。</p>
 <p>『やらかした時にどうするか』 坪田信貴/著 筑摩書房</p> <p>どんなに注意しても、失敗を完全に防ぐことはできない。ピンチはチャンス!失敗を分析し、糧にする方法を身につけて、果敢にチャレンジできるようになろう!</p>	 <p>『やりたいことが見つからない君へ』 坪田信貴/著 小学館</p> <p>進むべき道がわからないと悩む若者へ送る「人生戦略」。やる気の出し方や、10代の過ごし方、本当の自分の見つけ方、失敗との向きあい方などを伝える。</p>	 <p>『限りある時間の使い方』 オリバー・パークマン/著 かんき出版</p> <p>人生は「4000週間」。この限られた時間をどう過ごすか?いわゆるタイムマネジメント術ではなく、もっと重要で充実した時間の過ごし方を提案する。</p>
 <p>『大人 どういうこと?』 神内聡/著 くもん出版</p> <p>18歳成人が巻き込まれそうな契約やSNSでのトラブル紹介はもちろん、随所に「考える設問」も掲載。法律系のコラムやおうちの方、先生向けのQ&Aも必見!</p>	 <p>『そもそも民主主義ってなんですか?』 宇野重規/著 東京新聞</p> <p>世の中が変わろうとしているいま、民主主義について考えてみませんか?東京大学社会科学研究所の宇野重規教授が、身近な例に置き換えてわかりやすく解説します。</p>	 <p>『ぼくらの戦争なんだぜ』 高橋源一郎/著 朝日新聞出版</p> <p>「ぼくらの戦争」とは、どういうことか。膨大な小説や詩などの深い読みを通して、当事者としての戦争体験に限りなく近づく。著者最良の一作。</p>
 <p>『死んでもいいけど、死んじゃだめと僕が言い続ける理由』 大空幸星/著 河出書房新社</p> <p>24時間365日無料チャット相談を立ちあげた著者が、複雑な家庭で育った経験や相談窓口での対応をもとに、悩みを深い孤独に変えないための方法を伝える。</p>	 <p>『誰にも嫌われずに同調圧力をサラリとかわす方法』 大嶋信頼/著 祥伝社</p> <p>「同調圧力」に弱い人でも、人間関係の景色を変えられる!人気カウンセラーが、心理学に基づき、「同調圧力から抜け出せる自分」の作り方を紹介する。</p>	 <p>『「コミュ障」のための社会学』 岩本茂樹/著 中央論新社</p> <p>異文化理解のカギは生育歴の理解、自分だけのストーリーを生きるからおもしろい…。視野を広げて「コミュニケーションの壁」を取り払うポイントを解説。</p>
 <p>『世界はさわらないとわからない』 広瀬浩二郎/著 平凡社</p> <p>人間にも「触角」が必要だ!新型コロナ禍のいまこそ、世界にさわらなければいけない。全盲の触文化研究者が問う「さわること」の意義と無限の可能性。</p>	 <p>『いつか、未来で白血病ユーザーが伝えたいこと』 にゅーいん/著 主婦と生活社</p> <p>5歳で白血病、7歳で余命5年宣告。入院期間は人生23年間のうち10年間。逆境を明るく生きぬくユーザーが、闘病生活や社会に言いたいことを綴る。</p>	 <p>『最後の一年』 緊急事態宣言-学生アスリートたちの闘い 毎日新聞運動部/著 毎日新聞出版</p> <p>大会中止に追い込まれた苦悩、先行き不透明な状況への戸惑い…。コロナ禍という危機を、学生スポーツ選手たちがどう乗り越えていったのかがわかる貴重な記録。</p>